

発表タイトル

弥生・古墳時代の軍事組織

発表者所属名

日本歴史研究専攻（国立歴史民俗博物館）

発表者氏名

藤原 哲

1 弥生時代における戦闘の特徴

- 日本列島における武器の出現 → 戦いの普遍化
- 特徴的な戦闘方法は「背後からの攻撃」 → 数人単位の暴力

2 古墳時代における戦闘の特徴

- 武器副葬にみる階層性 → 戦士階層の普遍化
- 4~6世紀の東アジアは重装騎兵中心 → 日本列島は歩兵中心



図1 弥生時代の武器による装備方法

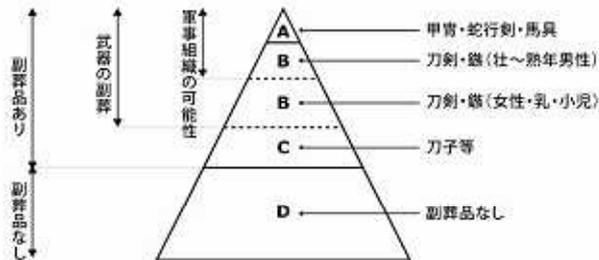


図2 古墳時代の副葬武器階層(宮崎県島内墳墓群)

3 軍事組織の類型

I 皆兵型	集団のほぼ全ての男子が軍隊の主力となり階層差の少ないもの (e.g. ベネズエラのヤヨマミ族)
II 戦士型	集団内の特定戦士階層が軍隊の主力となるもの (e.g. ニュージーランドのマオリ族、日本の武士階級)
III 徴兵型	主力は集団成員であるが、一般階層のものを徴兵・組織化したもの (e.g. 秦漢帝国、律令時代の日本、近現代の国民国家)
IV 傭兵型	軍主力を傭兵によって占めるもの (e.g. 帝政ローマ末期、ビザンチン帝国)

4 まとめ

弥生時代(前半)は皆兵型、古墳時代は戦士型の軍事組織が推察される。